

中国語会話における相づちの機能についての一考察

楊 晶

AN EXAMINATION ON THE FUNCTION OF NODS IN CHINESE CONVERSATIONS

Yang Jing

Summary

Appropriate behaviors of listeners including nods, take on significant contributing roles in helping to lubricate the flow of conversations. It is necessary to research this topic separately from grammar and vocabulary in the teaching and learning of foreign languages as the listener's behavioral patterns differ with each language.

In this research, focus has been placed on the analysis and examination of the function and pattern of listener's nods used in conversations among Chinese people. As the result, greater insight and understanding towards the function of nods and their main functions has been attained. This research also clarifies that nods are very closely linked to the purpose and topic of conversations, the closeness of talkers and the formality of conversations.

It is thought that we can figure out how the Chinese conversation works by clarifying the behavior of listeners. It is my intention that this research will provide us with a variety of perspectives to extend our understanding of the Chinese language as well as the acquisition of natural Chinese language skills.

0. はじめに

会話は話し手と聞き手があって始めて成立する。従って、会話において、聞き手側の反応は話し

手が話を進めていく上の一つの指標であるとも考えられる。このような聞き手側からの反応は、応答や質問、相づちなど言語的に表れることもあれば、笑いやうなずき、視線など非言語的に表れることもある。

会話中における聞き手の行動（言語的・非言語的反応を含む）は会話のパターンに特徴をつけると言われる。聞き手としての意識や、聞き手としての行動の仕方は言語によって異なることがある。会話の場面に相応しい聞き手の行動はコミュニケーションがスムーズに展開する上の重要な要素であると言える。よって、外国語教育や外国語学習においては、文法や語彙とは区別して研究する必要があると思われる。

本稿は、中国人同士による会話に実際に使用される聞き手の相づちの機能に着目し、考察することを目的とする。中国語会話において相づちがどのような機能を果たしているのかを分析し、各機能に対応する相づちの形態はどのようなものがあるかを分類する。更に、相づちの機能に影響を及ぼす要因について探してみる。

I. 中国語の相づちについての先行研究

中国国内においては、会話における聞き手の行動についての研究は断片的な記述しか見られない。ここで一編取り上げて見ることにする。

陈. 怎样听话. 汉语学习 1994 年第一期 p.61

听话时必须面向说话人, 身体微向前倾, 不能侧身对着说话人, 眼睛应盯着说话人, 同时用微笑、扬眉等动作, 表示对听话内容的专注, …

两个人交谈, 说话人边说, 听话人边用“嗯”、“噢”、“对”、“是”、“明白了”、“是这样”等呼应, 既表示对对方的尊重, 也表示对对方话语的理解和赞同. 如果不同意对方的观点, 一般则不作声.

(筆者訳:

人の話を聞いている時、普通話し手に顔を向け、上半身を前にやや傾けるべきである。目が相手をじっと見つめると同時に、微笑んだり、うなずいたりすることによって、話の内容を注意して聞いているということを示さなければならない。……

二人で会話をする時、聞き手は「はい」「あ、そうですか」「そうね」「そうですね」「分かりました」「なるほど」などと言いながら聞く。こうすることによって、相手への尊重の意を表わすと同時に、相手の話への理解と賛同をも表わすことになる。もし、相手の考えや意見に賛成でなければ、上のような反応を示さない。)

他言語との対照研究として海外で行われたものには、劉 1987、水野 1988、陳 1993、Clancy 他 1996、楊 1999、2000 がある。これらの研究の結果は次のようにまとめられる。

【形態】

中国語の相づちによく用いられる言語的な表現は、感嘆詞である“啊”“嗯”の下降調のもの（相

づち詞と見なされる）と“おうむ返し”（繰返し）である（陳、水野、楊 1999、2000）。非言語的表現の相づちとしては、視線やうなずき、微笑みなどの表情が挙げられる（水野）。また中国語の相づちには待遇性がない（水野）。

【頻度】

中国語の相づちの頻度が日本語や英語より低い（劉、Clancy 他、楊 1999）。頻度における個人差は日本人より大きい（劉）。

【出現場所】

中国語の相づちは主に文末に集中している（劉、Clancy 他、楊 2000）。

【相づちに影響を及ぼす要因】

中国語の相づちの形態は人間関係（上下、親疎）による変化がほとんどないが、相づちの頻度は話の内容による変化が非常に大きい。また、会話者間の役割関係（例えば、相談者と回答者）が相づちの頻度と形態に関っている（楊 1999、2000）。

これまでの中国語の相づち研究は、相づちの形態、頻度、出現場所について考察したものがほとんどで、会話における相づちの機能に対する詳細な分析は行われていない。相づちの全体像を明らかにするには、それが会話でどのように機能しているのかを調べなければならない。そこで、本稿では、非言語行動を含む相づちの機能を取り上げて考察を試みることにする。

II. 研究方法

(1) 分析資料

相づちの機能は会話場面によって異なる可能性が予測され、異なる場面における相づちの使用実態を調べる必要があると考え、次の2種類のデータを収集し分析資料とすることにした。

i. 対面会話

語学クラスの情報を知るために、被験者が直接大学の事務室に行き、面識のない事務員役の人に情報を教えてもらう場面を設定した（尋ねる内容を事前に指示した）。そこで行われた1対1の会話（3組）の録音・録画したもの。

ビデオカメラとテープレコーダーの存在を意識して、最初は多少緊張したり、落ち着かなかつたりする人もいたが、会話が始まると録音・録画されているという意識は徐々になくなり、少なくともかなり自然に近い場面の会話資料が入手できたと判断している。

ii. 電話による会話（以下「電話会話」と略す）

雑談場面及び依頼場面での、友人同士による自然な電話会話（各1組）を録音したもの。

上記2種類計5組の会話（合計1時間）はすべて北方出身の女性同士（共通語話者）による会話であり、主として一人（S1またはS2）が話し手となっている。分析する対象となるのは聞き手（C1～C5）によって使用された相づちのみである。表1は分析資料の概要である。

文 文 取 相 取 相

会話番号	会話時間	会話場面	会話者の人間関係	会 話 概 要
A	8分	対面会話 (情報提供)	話し手(S1、40代)と聞き手 (C1~C3、20代)は初対面	語学クラスの開設期間、授業 の時間帯、費用、先生や受講 生の状況。
B	7分06秒			
C	8分57秒			
D	27分38秒	電話会話 (雑談) (依頼)	話し手(S2)と聞き手(C4, C5)は友人であり、共に30代。 DではC4がかけ手、EではS2 がかけ手。	雑談：S2の様子、健康法、帰国後 の行き先、C4の受験に関する情報。 依頼：S2の友人についての紹介、 研究生としての受入先の紹介依頼、 注意事項等の検討。
E	8分18秒			

(2) 本研究で取り扱う相づちの定義

聞き手の行動については、相づちを打つ、確認や質問をする、質問に答える、と大きく分類できる。本研究では、聞き手の相づちに限定して調べる。相づちを広義に解釈する立場に立ち、以下のように相づちを定義付ける。

「相づち」とは、話し手が発話権を行使している間に、または発話を終えた直後に、聞き手が自由意志に基づいて送る（非言語的行動を含む）短い表現である。

この定義中の自由意志とは、話し手が積極的に応答を求めたものに対する答え¹ではないことを意味する。また、聞き手の短い発話のうち、話し手が回答を要すると見られるようなもの²は相づちとしない。

この定義から、会話資料の中の、聞き手による以下のような言語的・非言語な表現を相づちの形態とする。

- ア. 相づち詞：聞き手が話し手の話に対して送る「嗯」「啊」「是吗」（日本語の「はい」「ええ」「そうですか」に相当する）などの感嘆詞や慣用表現。
- イ. 繰返し：先行する話し手の発話の一部または全部を下降調で繰返すもの³。
- ウ. 言い換え：話し手の発話を自分の言葉で言い換えたもの。
- エ. 先取り：話し手がこれから言おうとすることを予測して、先行して発話するもの⁴。
- オ. コメント：話し手の発話内容に対して、意見や態度、様々な感情を表わす短い発話⁵。
- カ. うなずき：言語的表現を伴わないもののみを単独の相づちの形態と見なして、相づちの総数に入れる。言語的な相づちに共起しているものについては、言語的な相づちに付随したものとして扱う⁶。
- キ. 笑い：電話会話において観察された言語的表現を伴わないものに限定する。

(3) 文字化の記号

本稿で使用する会話資料の文字化の記号は以下のとおりである。

- ④ 聞き手の言語的な相づち。相づちの前の数字は、詳しく分析するものにつけた通し番号である。

啊ー 長めに発音される相づち

言語的な相づちを伴わないうなずき

(#) その直前の言語的な相づちと共に発生したうなずき

@@ 言語的な相づちを伴わない笑い

、話し手の発話中における筆者の判断による意味的なくぎりや文の意味的な完了

。話し手の発話中における筆者の判断による文の意味的な完了

Ⅲ. 結果の分析

聞き手全員の相づちの使用状況は表2のとおりである。「相づちの総回数」とは、上記相づち形態ア～キの使用回数の総数である。なお、1発話内で連続して使用された相づちについては、1異なり数と見なす⁷。また、うなずきが連続して発生した場合は、実際の回数を考慮せずに、すべて1回分とする。「他の言語的形態」とは、上記相づち形態のイ～オを指し、前後に相づち詞も使用されたものについては、これに分類する⁸。

分 の . の の の . 結 析 分 .

会話番号 (聞き手)	相づちの総回数 (うなずきを伴った言語的な相づちの回数)	相づちの異なり数及び回数	主な相づち詞及び 他の言語的形態の回数
A (C1)	59 (16)	相づち詞6 (計36回) 他の言語的形態2 (計18回) うなずき5	啊 - (13)、啊(7)、嗯(6)、 噢, 是这样的(5)、嗯 - (4)、 繰返し(16)
B (C2)	49 (18)	相づち詞8 (計34回) 他の言語的形態2 (計12回) うなずき3	嗯(12)、啊, 是这样(8)、 啊 - (5)、繰返し(11)
C (C3)	100 (40)	相づち詞7 (計82回) 他の言語的形態1 (計6回) うなずき12	啊(28)、嗯(23)、啊(21)、 繰返し(6)
D (C4)	151	相づち詞18 (計131回) 他の言語的形態4 (計7回) 笑い13	嗯(55)、嗯 - (14)、嗯嗯(31)
E (C5)	38	相づち詞8 (計29回) 他の言語的形態3 (計5回) 笑い4	嗯(10)、嗯嗯(7)、嗯 - (3)

本研究の目的と会話資料を踏まえて、次の(a)～(d)を相づちの機能とする。

- (a) 「聞いている表示」: 話し手の話を聞いていることや、話を継続させることを伝える。以下「聞いている」と略す。
- (b) 「理解・了解の表示」: 話し手の伝えた（または伝えようとする）情報への了解や理解を伝える。以下「理解・了解」と略す。
- (c) 「同意・共感の表明」: 話し手の話を聞いて理解し、同意（または否定）、共感を表明する。以下「同意・共感」と略す。

(d) 「様々な感情の表出」:話し手の話を聞いて感じた驚き、喜び、悲しみ、不信、同情、いたわり、謙遜などの感情や態度を表したり、興味や関心を示したり、アドバイスをしたりする。以下「感情の表出」と略す。

実際の会話においては、上記4つの機能は、互いに対立的なものではなく、1つの相づちは同時に複数の機能を兼ねることもある。この場合はどちらが主になるかという程度の差しかないと考えられる。会話資料に現れている相づちの機能について分類する際、1つの相づちが2つ以上の機能を兼ねる場合には、会話全体及び前後から判定し、4機能のうち主となる機能へ分類した。また、筆者が分類した結果について、それぞれの会話の聞き手(C1～C5)に文字化したものとビデオ録画・録音を提示して確認した。

以下、相づちが会話の中で4つの機能をどのように果たしているかを具体例で示す。会話例1～3は、機能(a)（「聞いている」）と機能(b)（「理解・了解」）の使用例である。

〈会話例1〉(S1が各大学の中国語教育のレベルや歴史について紹介している)

S1:如果说教学水平吧,应该说语言学院的最好。其它的呢,就是历史稍微短了些。就是在文化大

C3: ① 嗯 ② 啊— ③ 啊

S1:革命结束以后,在改革开放以后,外国人来得比较多了的情况下开始建立的,历史稍微短

C3: ④ # ⑤ 嗯—

S1:了一点儿。

(日本語訳)

S1:教授レベルについて言えば、語言大学が一番いいんでしょ。他の大学は歴史がちょっと

C3: ① ハイ ② ア、ソウデスカ

S1:浅いですね。つまり文化大革命が終わった後、改革開放以後、外国人が大勢来るように

C3: ③ ハイ ④ #

S1:なってから始ったものです。歴史がちょっと短いですね。

C3: ⑤ へー

S1:

〈会話例2〉(短期学習希望の場合の方法を説明している)

S1:让他自己来,根据他的要求就可以插到一个相应的班里去。比如说,他只能学四周,那这

C2: ⑥ 嗯—

S1:四周完了就走人就可以了。

C2: ⑦ 啊,是这样

（日本語訳）

S1：本人に来てもらって、その人の要求に応じて、レベルに合うクラスに編入します。

C2： ⑥ア、ソウデスカ

S1：もし4週間しか勉強できなかったら、4週間で終了してもかまいません。

C2： ⑦ア、ソウデスカ

〈会話例3〉（各コースの開始時期について）

S1：春天呢有春天的班，就是从三月开始。嗯。九月从九月中旬开始。另外暑假还有暑假班，从七

C3： ⑧三月开始 ⑨嗯

S1：月中旬开始。

C3： ⑩七月中旬

（日本語訳）

S1：春は春コースがあって、3月から始ります。うん。9月コースは9月中旬からです。

C3： ⑧三月から ⑨ハイ

S1：また夏休みコースもあって、7月中旬からの開講です。

C3： ⑩七月中旬

会話例1、例2と例3では、聞き手（C3とC2）による相づち①③④は、話し手S1の話を「聞いている」ということを表わすために打たれている。一方、②⑤⑥⑦⑧⑨⑩は、S1の提供した情報を獲得した時に使用されたもので、「分かった」「伝えた情報は確実に受け取った」ということを表明する印と見て良い。そのうち、⑥の「嗯ー（ア、ソウデスカ）」については、話し手の発話中に「編入」というキーワードが出現したため、聞き手が次の内容を予測できたことから使用した「先取り」の相づちと考えられる。

機能(a)に最も多く用いられたのは、「嗯」「啊」であるが、その他に、会話例1の④のような「うなずき」や、「是吗」「哦」がある。形態的にはやや単調で異なり数が少なくなっているが、対面会話と電話会話は共に約1/3の相づちがこの機能を果たしていると考えられる。

一方、相づちの機能(b)「理解・了解」を果たす相づちとして、電話会話では「嗯嗯」や「嗯ー」が多く用いられているのに対して、対面会話では「啊ー」「嗯ー」「嗯(#)」 「繰返し」が最も多く使用されている。また、一人のみが多用している相づちもある。C1の「噢，是这样的」(5回)、C2の「啊，是这样」(8回)、C3のうなずき(8回)である。これより、相づち形態においては個人による好みがあることが窺える。機能(b)の相づちは機能(a)の「聞いている」という機能を重ね持つことがあるが、電話会話においては約1/3、対面会話においては半分以上の相づちがこの機能を持っている。また、対面会話ではこの機能を果たす相づちの形態が最もバリエーションに富んでいることも分かった。その他、「言い換え」「先取り」「うなずき」も「理解・了解」の働き

をしている。

「同意・共感」という機能(c)の相づち使用については、対面会話では使用例が極めて少ないのに対して、電話会話では、会話例4、5、6で示したとおり、「同意・共感」を表わす相づちが多かった。

〈会話例4〉(ある都市の状況について話している)

S2: 不南不北, 是个好住的地方。人也好, 交通也比较方便。

C4: ⑪ 对对 ⑫ 对

(日本語訳)

S2: 北部でもなく南部でもない。人情があるし、交通の便も良い。

C4: ⑪ ソウソウ ⑫ ソウネ

〈会話例5〉(大学の研究生になることを希望する友人のことについて話している)

S2: 我说我完全能理解你这种心情。不是那么回事儿。但我没说太多, 反正…

C5: 嗯嗯 ⑬ 是啊 ⑭ 对呀

(日本語訳)

S2: あなたの気持ちは良く分かると彼女に言ったけど、それは無理でしょ。でも、それ以上、

C5: ウンウン ⑬ ソウネ

S2: 敢えて言わなかった。いずれ…

C5: ⑭ ソウネ

〈会話例6〉(医学を専攻した友人が専攻を変えたいことについて話している)

S2: 她说要改别的专业, 比如教育。你改教育也还是上不去呀。不是那么回事。关键…

C5: ⑮ 不能改教育 ⑯ 不一样

(日本語訳)

S2: 彼女は専攻を変えたいと言っているの。例えば教育学とか。でも、教育学に変えてもす

C5: ⑮ 教育学に変えてはだめ

S2: ぐに受かるとは限らないでしょ。そういうような簡単なことじゃないね。重要なのは…

C5: ⑯ そんな簡単じゃない

上記会話中の⑪⑫は、聞き手C4がS2の言っていること(その都市に対する評価)に同感であることを示すものであり、⑬は聞き手C5がS2の述べた考えに支持する態度を表明するものである。また、⑭はS2の行動(つまり「それ以上敢えて言わなかった」)に賛成である態度を表わすものとして受け止められる。そして会話例6では、C5がS2の話聞きながら自分の(医学専攻の人が教育学に変えようとする考えに反対する)態度を⑮で明確に表明している。また、⑯はS2の述

べた考えに賛成するという表明である。なお、「同意・共感」を表明する主な相づちには、「对」のバリエーション(例えば、⑪⑫⑬)、その他また「嗯嗯」「嗯(#)」などがある。

機能(d)〔感情の表出〕の相づちの使用を次の会話例で見てみよう。

〈会話例7〉(大学の設置状況について話している)

S1: 那学院叫语文系, 现在叫文化学院, 还有一个外语学院, 还有一个速成叫做出国人员培训

C1: ⑰噢, 语文系 文化学院

S1: 部。这三个系全都是中国人, 也就是说校园里有相当多的中国人。

C1: 啊(#) ⑱中国人 啊啊

(日本語訳)

S1: その学院は言語文学学部と言い、今は文化学院と言います。その他外国語学院もあります。

C1: ⑰へー、言語文学学部 文化学院 ア(#)

S1: また、出国者を養成する短期コースもあります。この3つのコースはすべて中国人です。

C1: ⑱中

S1: つまり、校内には中国人がたくさんいるわけです。

C1: 国人 アー

この会話では、⑰の「へー+繰返し」はS1の伝えた情報にC1が関心を持っている現われと考えられる。また⑱の繰返しは「3つのコースとも中国人が学生である」という情報に対してC1が驚きを感じた時に言ったものである。⑰と⑱は、先行発話に出た興味や感心を引いた部分、話し手の話を聞いて驚きや不信を感じた部分を聞き手が繰返すことによって話し手に伝えようとしていると解釈できる。対面会話においては、「感情の表出」機能の相づちは非常に少ないが、その主な形態は「繰返し」である。

一方、電話会話では、聞き手は主にコメントや笑いで様々な感情を表わしている。

〈会話例8〉(S2が自分の体調について話している)

S2: 胃肠不行, 也吃不了东西, ……

C4: ⑲是得好好休息

(日本語訳)

S2: 胃腸の具合が悪くて、なんにも食べられない。

C4: ⑲ちゃんと休んだ方が良いでしょう

〈会話例9〉(研究生としての受入先を紹介することを約束してくれたC5に対して、S2がお礼を言っている)

S2: 这就等于救了她的命了。这就是帮了我的忙了。

C5: ⑳没有没有 ㉑哪儿啊

(日本語訳)

S2: これで (私の友人である) 彼女の命が助かったと同じよ。これで私は本当に助かった

C5: ㊸ ソンナソソナ

S2: わ。

C5: ㊹ イイエイエ

会話例 8 では、聞き手 C4 は S2 の述べた症状を聞いてアドバイスをしている。これによって、体調を崩した S2 への心配やいたわりの気持ちが伝えられている。一方、会話例 9 では、S2 の遠回しのお礼に対して、C5 は㊸と㊹で謙遜な態度を表わしている。これらの短い表現は話し手の話の内容に対する聞き手の反応 (態度や感情) と考えられるため、機能 (d) を果たしていると見なすことができる。

<会話例 10> (S2 は第三者と電話した時に話した内容を C4 に話している)

S2: 精神上好像有点儿不行了似的, 属于精神方面。他说, 哎呀, 你现在精神上有毛病了 (笑),

C4: ㊺ @@ ㊻ @@

S2: 把我乐得不行。我说对呀, 肉体上有了病, 马上精神上也就垮下来, 很正确。

C4: ㊼ 逗死了

(日本語訳)

S2: (私は) なんか精神的に参っているみたい、精神面の問題だねと言ったら彼女は、あら、

C4: ㊺ @@

S2: あなたはちょっと精神的におかしくなっちゃったねと言っていた (笑い)。私はこう答え

C4: ㊻ @@

S2: た。そうよ、肉体的に病気になったら、精神的にもすぐだめになっちゃうよ。まったく

C4:

S2: そのとおり。

C4: ㊼ おかしい

会話例 10 における ㊼ は、話の内容と S2 の話す口調が聞き手 C4 にとって面白いと感じている現われと見てよい。また C4 による ㊺、㊻ の笑いは、S2 の話を興味を持って聞いているために反応した現れと考えられる。対面会話では言語的な相づちを伴わない笑いが余り観察されなかったのに対して、電話会話ではこの種の笑いが数箇所現れている。その理由として次のようなことが考えられる。対面会話は指定された場所で、親しくなく、面識もない者同士が行ったものであるため、ややフォーマルな場面と言える。また、話題も単純で、話し手の話の内容は聞き手にとって未知情報がほとんどである。よって、笑いが出現する必然性が低い。しかし、電話会話の参加者は友人同士であるため、インフォーマルな会話場面である。また、話題も比較的気楽であるため、対面会話より笑いが出現する必然性が高くなっていると推察される。

IV. 全体の考察

Ⅲでは、相づちが会話でどのように様々な機能を果たしているか、各機能を担う形態にどのようなものがあるかを会話例で見してきた。この節では、上記分析結果のまとめ及び考察を行う。

相づちの機能及び各機能に用いられた主な形態について個人別に分析し分類した結果を表3に示す。

の . 全 の の の の 察 の 全 .

	聞いている	理解・了解	同意・共感	感情の表出
C1	嗯、啊、繰返し、うなずき	啊-、嗯-、嗯（#）、 噢、是这样的	嗯（#）	繰返し
C2	嗯、啊	啊-（#）、嗯（#）、 啊、是这样、繰返し	嗯嗯（#）	繰返し
C3	嗯、啊、うなずき	啊-、啊、嗯（#）、 繰返し、うなずき	嗯（#）	繰返し
C4	嗯	嗯嗯、嗯-、嗯	嗯嗯、嗯-、对对对	笑い、コメント
C5	嗯	嗯嗯	嗯嗯、对	コメント

表3より、一部の同一形態が異なる機能を重ね持っているものを除外すれば、各々の機能に対応する相づちの主な形態があることが分かる。短く発音する「嗯」「啊」は、主に「聞いている」機能を果たしているが、長めに発音する「嗯」「啊」（つまり「嗯-」「啊-」）や連続して使用する「嗯」（つまり「嗯嗯」）及びうなずきを伴った「嗯」（つまり「嗯（#）」）は主に「理解・了解」の機能に用いられる。一方、うなずきを伴った「嗯」及び連続して使用する「嗯」は、「对」と共に「同意・共感」の機能も持っている。そして、「繰返し」と「コメント」はそれぞれ対面会話と電話会話で「感情の表出」機能を果たしている。

更に、各機能が会話に占める割合について見ると、どの会話も機能（a）と機能（b）を持つものが相づちのメインである点では一致している。どの種類の会話でも、相づちの大半が「聞いている」と「理解・了解」の機能を果たしているのは、この2つの機能は相づちの基本的な機能であるからであろう。つまり、聞き手の求めたい情報や、話し手側の出来事や話し手側に詳しいことを話し手が述べている途中、聞き手は相づちで「聞いている」態度を示して、話の更なる展開を促したり、一まとまりの意味を持った情報を獲得した場合には、「理解・了解」ということを相づちによって伝えたりするのである。

しかし、電話会話に比べて対面会話の方が「理解・了解」の相づちが多用され、「同意・賛成」と「感情の表出」は非常に少ない。このような結果になったのは、対面会話が情報提供を求めることを目的とするものであり、会話参加者が初対面であるというややフォーマルな場面設定によるものと考え

えられる。つまり、伝えられた必要な情報（この場合はほとんど新情報）を話し手から得れば会話の目的が達成されるので、「同意・共感」や様々な感情を示す必要がない状況となっていると推察される。

一方、電話会話の参加者が友人であるため、相手との友好的な関係を良好に保つことは事実の伝達や依頼を処理するのと同様に重要であると考えられる。従って、相づち使用に当たり、聞き手が「聞いている」「理解している」という表明から更に発展して、「同意・共感」や、驚き、感心、いたわり、謙遜など様々な感情や態度を示す相づちを用いて、話し手と同じ感情を共有したいということを積極的に表わそうとしている。また、話題に共有知識を持つ部分が比較的多いため、賛同や他の意見を表明できる文脈も対面会話より自然に多くなっていると考えられる。

V. 終わりに

以上、中国語会話に現れた相づちの機能と相づちの形態について分析・考察を行った。その結果、相づちが会話において4つの機能を果たしていることが明らかになった。各々の機能形態については、1つの相づちが複数の機能を重ね持っているものもあるが、各機能に用いられる主な形態があることも分かった。また、会話の目的や話題及び会話者の親疎関係、会話がフォーマルかインフォーマルかは相づちの機能に大きく関っていることも明らかになった。このことより、相づちの使用を分析する際には、一場面の会話のみではなく、多面的に観察する必要性が提示された。

中国人の会話における相づちを含む聞き手の行動を明らかにすることは、中国語会話の進め方や中国語コミュニケーションのスタイルを解明することにつながると考えられる。中国語の相づちの機能及び形態との対応関係が明らかになったことは、中国語の相づちの全体像を更に浮き彫りにすることができたと思われる。今回の研究結果を基に様々な観点から中国語に対する理解及び中国語の自然会話の習得への示唆を求めようと考えている。

今回の分析では、情報提供を求める会話及び雑談と依頼の電話に限った。今後は議論の場面での会話を分析し、そこで使用される相づちの機能や形態について考察したい。

(本稿は、2003年日本中国語学会関東支部11月例会で行われた研究発表を加筆修正したものである。)

(よう しょう・本学非常勤講師)

注

1) 話し手の質問、命令や要請に対する答えや返事を指している。それぞれの例を挙げる。会話資料ではアンダーラインで示す。

1) 質問に対する答え

S1: 你的那个朋友现在在中国吗?

C1: 没有。还没来呢。

(日本語訳) S1: お友達は今中国にいますか。

C1: いいえ。まだ来ていません。

2) 命令・要請に対する返事

中国語会話における相づちの機能についての一考察（楊）

S1：到了北京以后你们再一起来一趟吧。

C1：好的

（日本語訳） S1：（友達が）北京に来たら、一緒にこちらに来て下さい。

C1：はい。

- 2 情報確認と情報の追加要求の表現を指している。「情報確認」とは原則として直前に起こった話し手の発話内容に対して理解できなかった時に、聞き手がする質問のことである（例1においてアンダーラインで示すC5による発話）。「情報の追加要求」とは、聞き手が話し手の発話内容を理解した上で、異なる情報を求めとうとするものである（例2においてアンダーラインで示すC3による発話）。

例1

S2：她原来是学医疗专业的。

C5： 啊

S2：大医的。

C5：大連医学院的？

（日本語訳） S2：彼女は医学を専攻していたけど。

C5： そうなんだ

S2：「大医」の卒業生。

C5：大連医科大学のこと？

例2

S1：汉语学院…因为它是培养那个汉语方面的专业人材。这样呢，它在语音阶段，它的要求特别严，训练得比较严格。

C3：那么，汉语学院也是属于语言学院的？

（日本語訳）

S1：中国語学院は…中国語分野の人材を育成するところですので、発音学習の段階では非常に厳しい訓練を行っています。とにかく厳しいです。

C3：では、この中国語学院は語言大学に所属しているのですか。

- 3 次の会話におけるC2による繰返しは、上昇調で発話されたものであるため、繰返しの相づちと見なさない。

S1：学一年半的话，可以达到准中级。

C2：准中级↑

S1：嗯

（日本語訳） S1：一年半勉強すれば、準中級のレベルまでいけます。

C2：準中級↑

S1：そうです。

- 4 次の会話におけるアンダーラインで示すC4による発話は先取りの例である。

S1：我也游不好，但就是想活动活动，在水里

C4：活动一下

S1：活动活动也挺好，我觉得。

C4：嗯。对对。

（日本語訳） S2：私はうまく泳げないけど、とにかく運動したいので、まあ、水中で

C4：ちょっと運動する

S2：体を動かしたりするのも良いと思って

C4：うん、そうそう

- 5 次の会話の中でのアンダーラインで示すC4による発話はコメントの例である。

S2：肉体上有了病，马上精神上也就垮下来，很正确。

C4：逗死了

（日本語訳） S2：肉体的に病気になったら、精神的にもすぐだめになっちゃうよ。まったくそのとおり。

C4：おかしい

- 6 次の会話におけるC2によるうなずき（「①#」で示す）は言語的表現を伴わないもので、相づちの形態の一つとするが、C2によるうなずき「②（#）」は言語的な相づち（啊「＝そうですか」）に共起して

いるため、相づちの総数に入れない。

S1：那个汉语学院呢，强调的是基础教育，

C2：①#

S1：重视基础语法语音，多技能的全面提高。

C2：啊② (#)

(日本語訳) S1：あの中国語学院では、基礎教育を重視して、

C2：①#

S1：基礎文法や発音など、全面的に言語的な能力の向上を目指しています。

C2：ソウテスカ② (#)

7 次の会話の中のC2による相づちは1異なり数とする。

S1：比如说，他只能学四周，那这四周完了就可以走人了。

C2：啊，是这样

(日本語訳) S1：もし4週間しか勉強できなかったら、4週間で終了してもかまいません。

C2：ア、ソウテスカ

8 例えば、「啊+繰返し」や「噢+繰返し」の場合、「繰返し」とする。次の会話の中のC1による相づちはその例である。

S1：那学院叫语文系，

C1：噢，语文系

S1：现在叫文化学院…

(日本語訳) S1：その学院は言語文学部と言い、

C1：へー、言語文学部

S1：今は文化学院と言います…

参考文献

- 黄麗華 2002. 中国語の肯定応答表現—日本語と比較しながら—, 定延利之編『「うん」と「そう」の言語学』47-60. ひつじ書房.
- 杉戸清樹 1988. ことばのあいづちと身ぶりのあいづち—談話行動における非言語的表現—. 日本語教育 67: 48-59.
- 陳文芷 1993. 言葉と生活“啊”“噢”“嗯”. 中国語 2: 42-43. 内山書店.
- 水谷信子 1993. 「共話」から「対話」へ. 日本語学 14-6: 4-11.
- 水野義道 1988. 中国語のあいづち. 日本語学 7-13: 18-23.
- メイナード・K・泉子 1993. 『会話分析』くろしお出版.
- 楊晶 1999. 中国語と日本語の電話会話における相づち使用の一比較—形式と頻度の観点から—. 言語文化と日本語教育 17: 1-13 日本言語文化学会.
- 楊晶 2000. 中国語会話における聞き手の言語行動について—ラジオの電話相談番組の場合—. 新島学園女子短期大学紀要 19: 1-16.
- 劉建華 1987. 電話でのアイツチ頻度の中日比較. 月刊言語 1987-11: 93-97.
- 陳建民 1994. 怎样听话. 汉语学习 1994-1: 61-62. 汉语学习编辑部.
- 邓炎昌・刘润青 1989. 《语言与文化—英汉语言文化对比》外语教学与研究出版社.
- Clancy, P. M. Sandra A. Thompson, Ryoko Suzuki & Hongying Tao. 1996 “The conversational use of reactive tokens in English, Japanese, and Mandarin” *Journal of pragmatics* 26: 355-387
- White, S. 1989 “Backchannels across cultures: A study of Americans and Japanese” *Language in Society* 18: 59-76